

群 教 セ	G10 - 01
	令 4.281集
	道徳

# 道徳的価値を理解し、 自己の生き方についての考えをもつ児童の育成 —「気持ちカード」と「広げるシート」を活用した 交流活動を通して—

特別研修員 飯野 聡子

## I 研究テーマ設定の理由

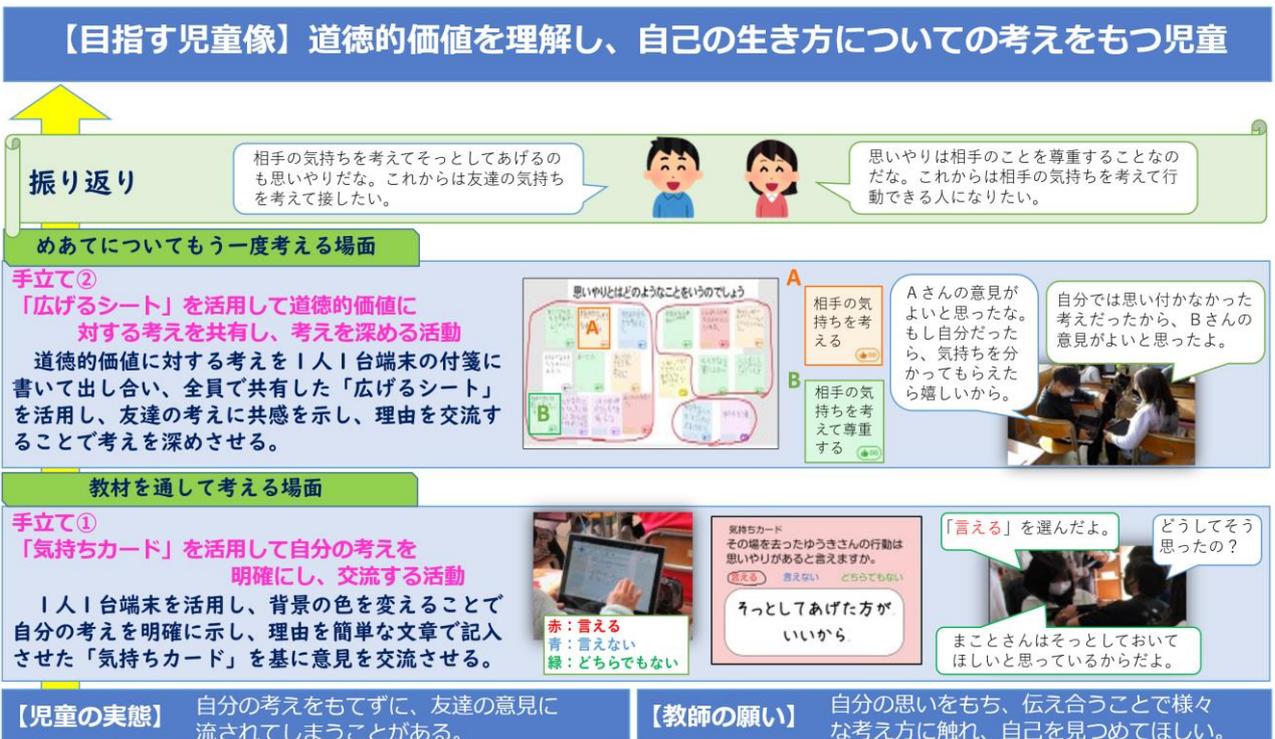
小学校学習指導要領解説特別の教科道徳編（平成 29 年 7 月）では、「児童が道徳的価値の理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考えることを通して形成された道徳的価値観を基盤として、自己の生き方についての考えを深めていくことができるようにすることが大切である。」とあり、児童に自己の生き方についての考えを深めることを意識させることの重要性が指摘されている。

研究協力校の児童は、教材に興味をもって意欲的に取り組み、発言できる児童もいる。しかし、道徳的価値について自分の考えをもてずに友達の考えに流されたり、教材を読んだ感想だけの表面的な記述を発表するだけで満足したりするなど、自分のこととして道徳的価値を捉えることに課題が見られる。そこで、児童一人一人が、道徳的な課題を自身の問題として捉え、自分の考えを明確にもち、互いに伝え合い他者の多様な感じ方や考え方に触れることで、これまでの自分の経験や考え方を見つめ、これからのような自分になっていきたいかという思いをもつことができると考えた。

児童が道徳的価値を理解し、自己の生き方についての考えをもつことができるよう、自らの考えをもち、多面的・多角的に考えを広げたり深めたりする交流活動を重視することとし、上記のとおり本テーマを設定した。

## II 研究内容

### 1 研究構想図



## 2 授業改善に向けた手立て

児童が自分の考えを明確にもって伝え合うことができるよう、「気持ちカード」を活用して立場を可視化し、考えを交流する場を設ける。また、児童が道徳的価値を理解し、自己の生き方についての考えをもてるよう、「広げるシート」を活用して考えを共有したり交流したりする場を設ける。

**【手立て1】 「気持ちカード」を活用して自分の考えを明確にし、交流する活動**

**【手立て2】 「広げるシート」を活用して道徳的価値に対する考えを共有し、考えを深める活動**

### 【手立て1】について

1人1台端末を活用し「気持ちカード」の背景の色（赤・青・緑）を変えることで自分の考えを明確に示す。その理由を簡単な文章で書いておき、端末を互いに見せながら友達と交流する。迷う気持ちや新たな考えを引き出すことができるように、考えを明確にする際には、例えば「言える：赤」「言えない：青」「どちらでもない：緑」のように三つの選択肢から選ぶようにする。こうすることで、考えを可視化し自分の考えと比較しながら対話することができると思った。また、自分の考えを文章で書いておくことで、話すことが苦手な児童にとっても交流しやすくなると思った。

### 【手立て2】について

道徳的価値に対する考えを1人1台端末の付箋に書いて出し合い、「広げるシート」を全員で共有する。「広げるシート」を見やすくするために、教師は付箋を移動させて似ている意見の付箋をまとめて線で囲み、グルーピングしていく。児童は付箋を読んで詳しく知りたい意見について質問したり、友達の意見に共感した時には学習支援ソフトのリアクション機能を活用してその理由を交流し合ったりする。このようなことを通して、他者の様々な考えに触れ、自分の考えを深めていくことができると思った。

## Ⅲ 研究のまとめ

### 1 成果

- 手立て1では、「気持ちカード」を活用することで、道徳的価値を自分のこととして捉え、全員が自分の考えをもって意見を伝え合う姿が見られた。児童の考えや立場が可視化してある「気持ちカード」を互いに見せ合い、「どうしてそう思ったの？」と聞き合うなど、児童が自分の考えを明確にして交流するのに有効であった。全員の意見が映された大型モニターの友達の考えを見て、自分の意見と比較しながら交流することで多様な考え方に触れることができた。
- 手立て2では、「広げるシート」を活用して道徳的価値に対する考えを共有し、友達の意見にリアクション機能の「いいね」ボタンを押してその理由を伝え合うことを通して、多様な考えがあることに気付いたり、自分では思い付かなかった考えに触れたりすることで、道徳的価値に対する考えを深めることができた。
- 交流の際には、理由を聞き合ったり今まで気付かなかった考えを認め合ったりして考えを深めたことで、終末では、これまでの自分を振り返り、これからはどうしていきたいかについて考えた具体的な記述が見られ、自己の生き方についての考えをもつことにつながった。

### 2 課題

- 手立て1では、「気持ちカード」に記入する時間に個人差があり、大型モニターに映された友達の考えに影響されて自分の考えに迷いが出てしまうことがあった。大型モニターに映すタイミングや、交流後に考えが変わった場合のカードの変え方、「気持ちカード」の選択肢を三つに分けたことを生かせるような効果的な発問についても考えておくことが必要である。
- 手立て2では、「児童自身が類似の意見をまとめる」「共感を示す前に十分な意見交流を行う」といった場面を設けるなど「広げるシート」を活用した交流の工夫を行うことで、更に道徳的価値に対する考えを深めることができると考えられる。

## 実践例

- 1 主題名 相手の気持ちに寄り添って 内容項目B-(6)親切、思いやり (第4学年・2学期)  
教材名 「ゆうきの心配」(出典:「新訂 新しいどうとく4」東京書籍)

### 2 本主題について

#### (1) ねらいとする道徳的価値について

よりよい人間関係を築く上で、自分のことばかり考えるのではなく、相手に対する思いやりの心を持ち親切にすることは不可欠である。思いやりとは、相手の気持ちや立場を自分のことに置き換えて推し量り、相手に対してよかれと思う気持ちを相手に向けることである。励ましや援助をすることだけではなく、時には相手のことを考えて温かく見守ることも親切な行為としての表れである。相手のことを親身になって考え、親切な行為を行おうとする心情を育てることが大切である。

#### (2) 児童の実態について

本学級の児童は、友達に困っているときに思いやりの気持ちを持ち、親切にできる児童が多い。しかし、相手の気持ちを深く理解しようとせず、他の人々の感じ方や考え方が自分と同様であると思いついで自分が思う親切を押しつけてしまうような様子も見られる。そこで、相手に対する思いやりの心を育て、相手の置かれている状況や気持ちを考えて親切にしようとする心情を育てたい。

#### (3) 教材について

本教材は、サッカーで友達とぶつかってけがをした「まことさん」を心配して声を掛けた「ゆうき」が、ぶつかった友達のためにけがをかくしたい「まことさん」の気持ちに寄り添い、その場をそっと去るという話である。本教材を通して、思いやりの心をもって親切にすることは、単に手を差し伸べることだけではなく、相手の気持ちに寄り添い温かく見守ることもあるということに気付かせたい。

### 3 本時及び具体化した手立てについて

本時では、自分の考えを交流し合う場面において以下の二つの手立てを具体化した。

#### 【手立て1】「気持ちカード」を活用して自分の考えを明確にし、交流する活動

- ・発問に対して、1人1台端末を活用し「気持ちカード」の背景の色を「言える」は赤、「言えない」は青、「どちらでもない」を緑に変えて意思表示し、理由を簡単に手書き入力させる。
- ・全員のカードを大型モニターに映し、交流への意欲を高める。
- ・1人1台端末を互いに見せながら友達と意見交流する時間を設定することで、多様な感じ方や考え方に触れることができるようにする。このとき、児童は大型モニターで友達の考えを見て自分が気になった友達のところへ行ってみて交流してくるようにする。

#### 【手立て2】「広げるシート」を活用して道徳的価値に対する考えを共有し、考えを深める活動

- ・1人1台端末を活用し、展開後段のめあてについてもう一度考える場面では「思いやりとはどのようなことをいうのでしょうか」に対する自分の考えを付箋に手書き入力させる。
- ・全員の付箋が貼ってある「広げるシート」を大型モニターに映し、意見を共有する。
- ・教師がシートを整理して児童の類似した考えが分かるようにした後、児童が質問をし合ったり自分の考えを発表したりする。
- ・友達の考えに共感したらリアクション機能を活用する。なぜその意見に「いいね」ボタンを押したのかを交流し合い、道徳的価値について考えを広げたり深めたりすることができるようにする。

#### 4 授業の実際

導入では、本時で扱う道徳的価値について問題意識をもたせるために「思いやりとはどのようなことだろう」と問い掛けた。児童からは「心配してあげること」「優しくすること」という意見が出された。「けがをしたときに保健室に連れて行ってもらった」「探し物を一緒に探してもらった」等、自分たちの日常生活の中で親切、思いやりについて考えられるよう、具体的な場面を想起させた後、「思いやりとはどのようなことをいうのでしょうか」というめあてを設定した。

展開では、教科書を範読し、教材文の内容が理解しやすいように場面絵を提示し、主人公がその場を去った思いに気付けるよう、まことさんを心配する主人公の気持ちを押さえた。

#### 【手立て1】 「気持ちカード」を活用して自分の考えを明確にし、交流する活動

中心発問「その場を去ったゆうきさんの行動は思いやりがあると言えますか。」では、1人1台端末を活用した「気持ちカード」の背景の色を、言える：赤、言えない：青、どちらでもない：緑として変えるよう指示し、そう思った理由も簡単に入力させておくようにした(図1)。このようにしたことで、全員が自分の意見を明確に示すことができた。

次に、「気持ちカード」を互いに見せながら意見の交流を行った。大型モニターに映し出された「気持ちカード」を見て(図2)「違う意見の友達の話聞いてみたいな」「同じ意見だけど、理由はどうか」と、自分が意見を聞きたいと思った友達のところへ行って交流した(図3)。そうすることで、自分との共通点や相違点に着目して意見交流をすることができた。理由が書いてあるので、話すことが得意ではない児童も安心して交流することができていた。交流の際には傾聴の姿勢を大切に、ただ単に書いてあることを言うだけでなく「どうして赤(言える)にしたの?」「わたしもそう思ったよ」「確かに、そういう考えもあるよね」と、自分と友達の意見を比較しながら交流し、考えを深めたり認め合ったりすることができた。クラス全体での発表では、赤を選んだ児童から「まことさんが大丈夫だと言っている」「まことさんのためにそっとしておいてあげたほうがよい」、青を選んだ児童から「けがをしているのだから保健室に連れて行ったほうがよい」「もっと心配したほうがよい」という意見が出た。迷っていた様子は見られたが、今回は緑を選んだ児童はいなかった。

その後、まことさんが笑顔でVサインをし、ゆうきも力いっぱいVサインをした裏にある心について考えを深められるように、「なぜ二人はVサインをしたのだろうか」と問い掛けた。手立て1で意見交流をしたことで、主人公の行動の意味を考えることができていたため、児童からは「ゆうきは、そっとしておいてほしいというまことさんの気持ちを考えてあげていたから」「まことは、ゆうきに対して心配してくれてありがたうと思っているから」という意見が出され、二人の気持ちが通じ合ったことや気持ちが通じ合う喜びを確認することができた。

#### 【手立て2】 「広げるシート」を活用して道徳的価値に対する考えを共有し、考えを深める活動

めあてに対してもう一度考える場面では、思いやりとはどのようなことをいうのかについて考えさせた。1人1台端末を活用し、それぞれが自分の考えを入力した付箋を出し合った「広げるシート」で考えを共有した(次ページ図4)。「広げるシート」を見やすくするために教師が付箋を整理し、同じ意見をまとめた。意見の多い付箋を書いた児童や詳しく聞いてみたいと質問があった児

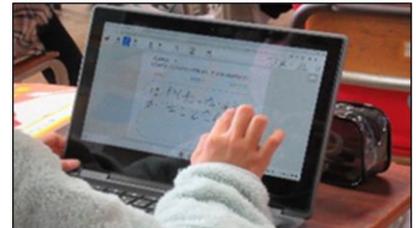


図1 「気持ちカード」を入力する様子

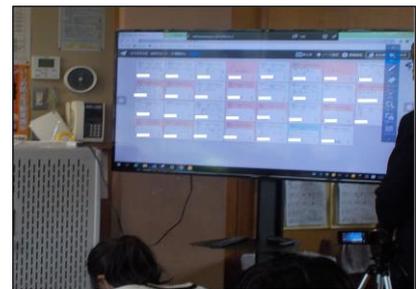


図2 大型モニターに映し出された「気持ちカード」



図3 意見交流の様子

童が、自分の考えを公表した。児童からは「思いやりとは相手の気持ちを考えることが大切だと思う」「相手の気持ちを考えて尊重することだと思う」「相手のことを考えて心配しすぎないことも思いやりだと思う」という意見が出た。

その後、共感した友達の付箋にリアクション機能を活用して「いいね」ボタンを押させ、その理由について交流した。「自分では思い付かなかった意見だからなるほどなと思った」などと新たに気付いたことがあったと発言していた児童もおり、「広げるシート」を基にして自分の考えを深めることができていた（図5）。

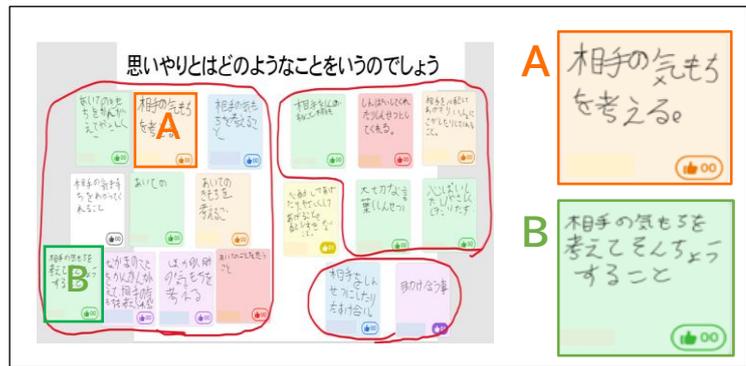


図4 「広げるシート」で考えを共有した様子

児童1：Aさんの「相手の気もちを考える」という意見がよいと思いました。もし自分だったら、気持ちを分かってもらえたら嬉しいからです。  
 児童2：Bさんの「相手を尊重する」という意見が自分では思い付かなかった考えだったので、よいと思いました。相手の気もちを考えると尊重するって大切だと思いました。

図5 共感を示す児童の発言

終末では、手立て2で多様な意見に触れて深めた道徳的価値の理解を基に自己を見つめ、よりよい自己の生き方についての考えをもてるよう、「今までの自分」「これからの自分」「友達の意見から」という視点で振り返らせた。児童からは「そっと見守ることも思いやりの一つだと気付いた」「これからは相手のことをよく考えて、思いやりをもって友達に接したい」といったように、道徳的価値を理解し、これからの自分の生き方について考えた記述が見られた（図6）。

- ・今までは「思いやり」は心配することだと思っていたけど、この勉強をして「思いやり」は相手のことを考えることだと思った。
- ・今までは、思いやりとは助け合ったり心配したりしてあげることだと思っていたけど、友達の意見を聞いて心配しすぎないでそっとしてあげるといふもの思いやりの一つだと分かった。
- ・今までの自分は本当の親切ができていなかったのかもしれないと思った。これからの自分は相手の気持ちを考えて行動できる人になりたい。

図6 児童の振り返りの記述

## 5 考察

手立て1では、「気持ちカード」で視覚的に自分の考えを表すことで、児童一人一人が道徳的な課題を自分のこととして捉え、全員が自分の考えを表明することができた。互いに「気持ちカード」を見せながら交流することで、自分の考えと比較しながら多様な意見に触れることができた。「気持ちカード」の選択肢を三つにしたことを生かせるような発問、大型モニターに映すタイミング、交流後に意見が変わった場合のカードの変え方なども考えておくと、更に交流が効果的になると考えられる。

手立て2では、「広げるシート」を活用して道徳的価値に対する考えを共有し、共感した理由を交流することで、ねらいとする道徳的価値についての考えを深めることができた。児童の振り返りの記述を見ると、他者の多様な感じ方や考え方に触れることで自己を見つめ、これからの自分はどのようにしていきたいのかを考えることにつながったと考えられる。今後は更なる考えの深まりを目指し、「児童自身が類似の意見をまとめる」「共感を示す前に児童同士で考えたことを十分交流し合う」といった工夫をしていくことが考えられる。